

2024年12月期 第3四半期

決算説明会資料

2024年11月8日

株式会社 日本アクア



証券コード 1429

決算ハイライト

当初は3Qからの拡大を見込んでいましたが、防水部門が好調な一方で、戸建・建築物部門において2Qまでに遅れが生じ、順次解消されているものの、予想を下回る結果となりました。

Q4への業績の集中度は従来予想よりも大きくなる見込みですが、通期予想達成は課題が残る状況にあります。

売上高	20,817 百万円	増減額	+652 百万円
前年	20,165 百万円	増減率	+3.2 %
		予想	21,780 百万円
売上総利益	4,672 百万円	増減額	△185 百万円
前年	4,858 百万円	増減率	△3.8 %
		予想	5,061 百万円
経常利益	1,548 百万円	増減額	△677 百万円
前年	2,225 百万円	増減率	△30.4 %
		予想	1,971 百万円



戸建部門売上高

9,683 百万円

前年 10,017 百万円

予想 10,100 百万円

YoY △3.3% 数量効果 △4.3%
価格効果 +0.9%

- ・新設住宅着工戸数の弱含み続く
- ・広域展開ビルダーからの受注は拡大
- ・地域密着型工務店からの受注は苦戦
- ・例年以上にQ3後半からQ4に施工が集中



建築物部門売上高

6,454 百万円

前年 5,917 百万円

予想 7,188 百万円

YoY +9.1% 数量効果 +6.8%
価格効果 +2.3%

- ・良好な市場環境が続く
- ・Q3まで他社事情による手待ちが発生
- ・Q4に大型工事の売上計上が集中
- ・手待ち対処でスポット工事の獲得が進まず



防水部門・その他売上高

4,679 百万円

前年 4,229 百万円

予想 4,491 百万円

YoY +10.6% 防水部門 +24.6%
原料販売 +12.1%
その他 +8.0%

- ・防水部門は非住宅の改修ニーズが旺盛
- ・戸建部門のバンドル販売で副資材伸長
- ・施工体制増強で吹付機械販売も伸長

通期業績予想の修正

3Qまでの状況を踏まえ、2024年12月期の通期業績予想を下方修正しました。

防水部門やその他売上高（副資材・吹付機械などの商品販売）は好調で上振れしましたが、3Qまでの戸建・建築物部門の遅れを補い切るには至りませんでした。

売上高	30,000 百万円	期初予想	31,005 百万円
前年	28,341 百万円	増減額	△1,005 百万円
		増減率	△3.2 %
売上総利益	6,980 百万円	期初予想	7,408 百万円
前年	6,924 百万円	増減額	△428 百万円
		増減率	△5.8 %
経常利益	2,600 百万円	期初予想	3,100 百万円
前年	2,917 百万円	増減額	△500 百万円
		増減率	△16.1 %



戸建部門売上高

13,450 百万円

期初予想 14,408 百万円
増減額 △958 百万円

増減率 △6.7% 数量効果 △5.9%
価格効果 △0.8%

- ・ 全般的に大手ビルダーがシェアを維持する中、地域密着型がシェアを落とし、当社の施工棟数は伸び悩む
- ・ マンションリフォームは拡大ペースが当社予想より鈍い



建築物部門売上高

9,890 百万円

期初予想 10,394 百万円
増減額 △504 百万円

増減率 △4.8% 数量効果 △13.1%
価格効果 +8.2%

- ・ 3Qまでの着工遅れをカバーできず
- ・ 遅延により工程が確定できず、スポット工事の獲得が進まず



防水部門・その他売上高



6,660 百万円

期初予想 6,202 百万円
増減額 +457 百万円

防水部門 +119 百万円
原料販売 +0 百万円
その他 +338 百万円

- ・ 防水部門は、非住宅案件の伸長で期初予想を上回る
- ・ 原料販売は、計画線上の着地見込み
- ・ 副資材・機械・その他はキャンペーン効果等で伸長

2024年12月期 通期

配当予想は変更なし

- ・業績の低迷は外部環境による影響大
- ・中長期の経営戦略は不変

上記の状況を踏まえ、配当性向目標50%を上回るものの、中期経営計画の配当予想額を重視し「変更なし」と決定しました。

1株当たり配当金

34.0円

前期実績 32.0円

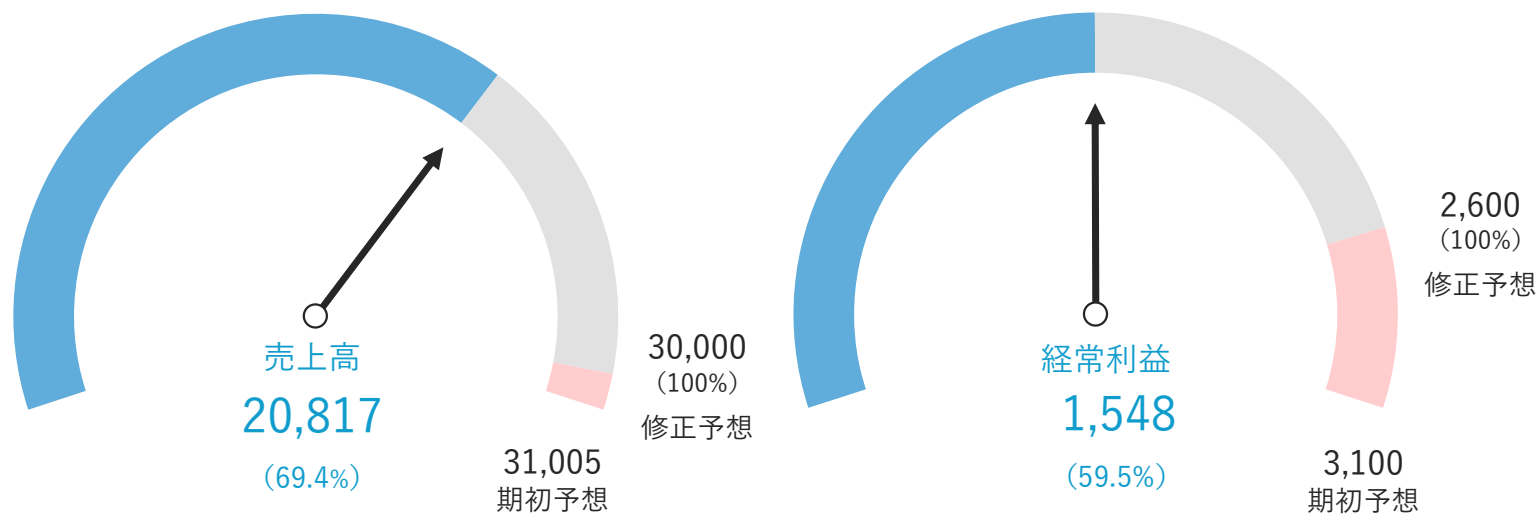
配当性向

60.8%

YoY +10.7pt

修正予想に対する進捗

(単位：百万円)



Agenda

01 2024年12月期 第3四半期 決算概要

02 2024年12月期 業績予想の修正

03 戸建部門

04 建築物部門

05 防水部門、その他

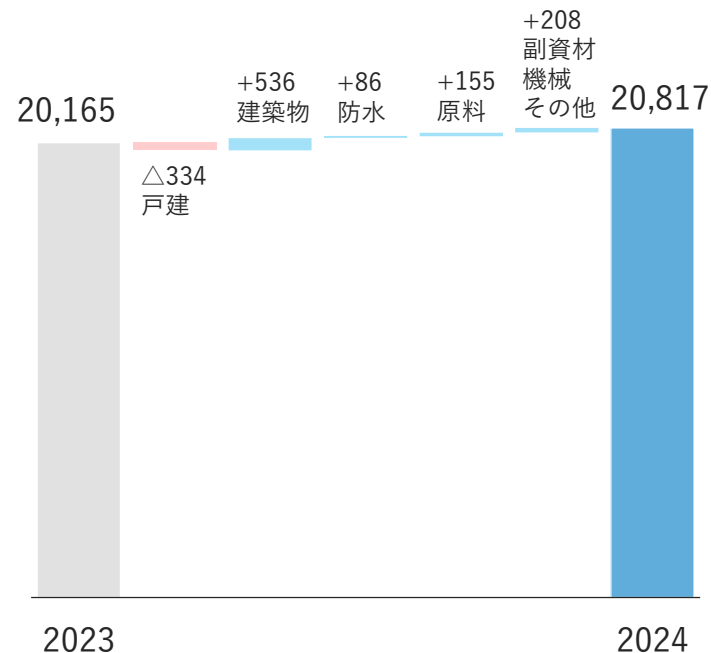
06 中期経営計画について

07 Appendix

2024年12月期 第3四半期

売上高

20,817 百万円 増減額 +652 百万円
 前年 20,165 百万円 増減率 +3.2 %
 予想 21,780 百万円

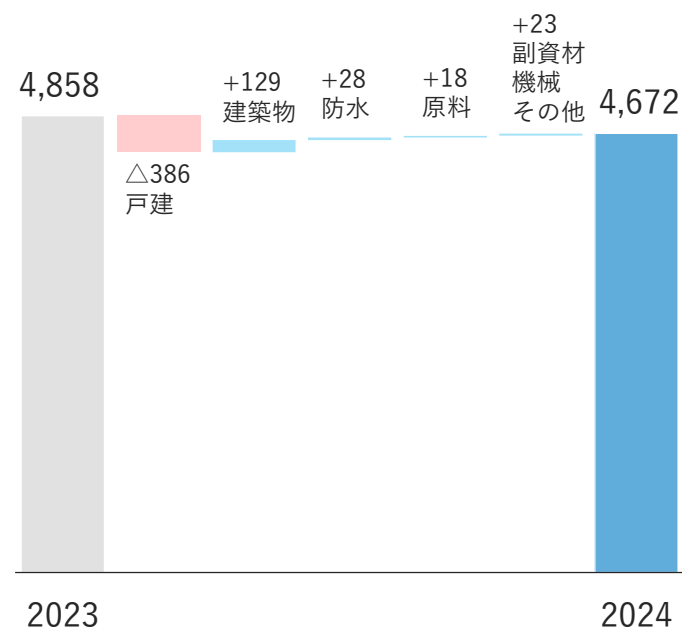


部門別
売上高

	FY2023 Q1	Q2	Q3	Q4	累計	FY2024 Q1	Q2	Q3	予想 Q4	予想 累計
売上高	6,368	6,789	7,006	8,176	28,341	6,272	6,840	7,705	9,182	30,000
戸建	3,221	3,287	3,509	3,780	13,798	2,985	3,276	3,421	3,766	13,450
建築物	1,912	1,936	2,068	2,350	8,267	1,929	2,064	2,460	3,435	9,890
防水	126	122	100	139	489	136	124	174	379	815
原料販売	337	428	510	638	1,916	414	507	510	803	2,235
機械・副資材・その他	770	1,015	817	1,266	3,869	807	866	1,137	798	3,610

売上総利益

4,672 百万円 増減額 △185 百万円
 前年 4,858 百万円 増減率 △3.8 %
 売上総利益率 24.1 % ▶ 22.4 %

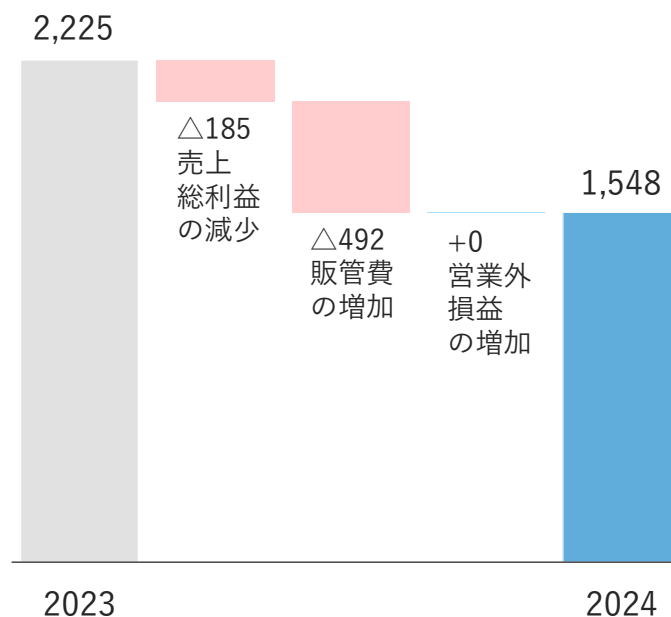


部門別
売上総利益

	FY2023 Q1	Q2	Q3	Q4	累計	FY2024 Q1	Q2	Q3	予想 Q4	予想 累計
売上総利益	1,457	1,666	1,734	2,066	6,924	1,447	1,459	1,765	2,307	6,980
戸建	876	866	929	1,012	3,685	730	777	778	873	3,160
建築物	361	450	540	610	1,963	454	443	583	842	2,324
防水	△21	△12	△1	0	△35	2	△10	0	59	52
原料販売	63	82	89	107	342	74	89	89	144	398
機械・副資材・その他	177	279	175	336	968	181	162	312	387	1,043

経常利益

1,548 百万円 増減額 △677 百万円
 前年 2,225 百万円 増減率 △30.4 %
 予想 1,971 百万円
 経常利益率 11.0 % ▶ 7.4 %



- ・ 人件費の増加：人員増及び給与等の増額
- ・ 2024年度より認定施工店報奨金の一部を引当計上したためQ4の販管費は前年を下回る見込み

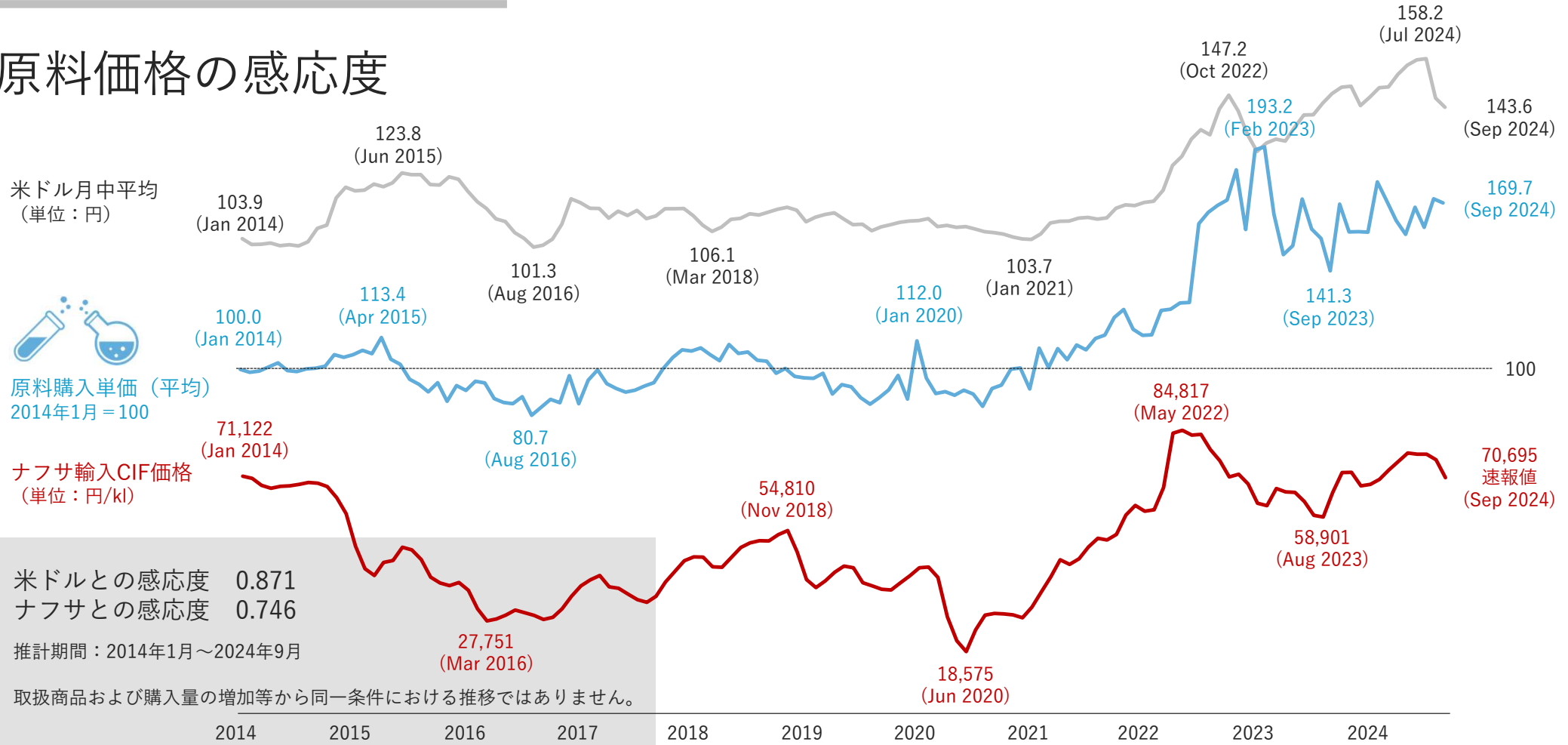


主な販管費

	FY2023 Q1	Q2	Q3	Q4	累計	FY2024 Q1	Q2	Q3	予想 Q4	予想 累計
売上総利益	1,457	1,666	1,734	2,066	6,924	1,447	1,459	1,765	2,307	6,980
販売費及び一般管理費	829	913	915	1,383	4,042	1,002	1,055	1,093	1,228	4,380
人件費	432	480	477	738	2,128	557	577	576	984	2,695
施工店報奨金				150	150	2	9	11	15	38
実習生関連費	56	62	60	89	267	72	93	113	83	362
旅費交通費	53	66	64	66	250	53	58	65	62	240
地代家賃	45	46	48	50	190	49	55	55	56	217
減価償却費	39	41	41	42	164	41	43	43	46	176
経常利益	641	758	824	691	2,917	453	415	679	1,051	2,600

注) 2024年第2四半期より人件費の算出方法を変更したため、遡って修正しています。

原料価格の感応度



施工力の推移

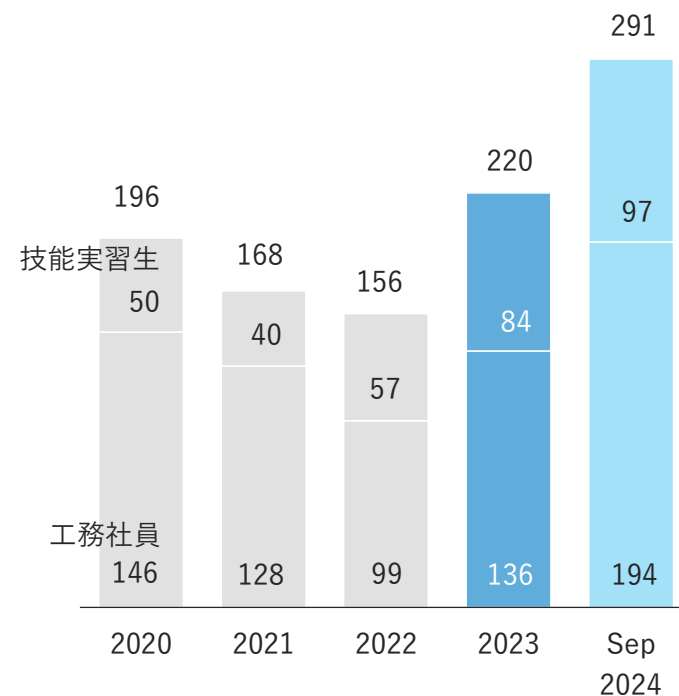
施工力の強化（工務社員の増強）について

- ・ 競合と比較して、質量とも圧倒的な体制を構築したい
- ・ 2023年から認定施工店社員と併せて年間100名増に取り組み中
- ・ 2023年、2024年とも概ね計画通りに推移
- ・ 2025年以降も同様のペースでの拡大を見込む

 高待遇・好条件	 完全土日休み
 プライム上場会社	 育成担当部署
 職住近接	 若手が多い

工務社員数（日本アクア）

技能実習生には技能実習法に基づく一時帰国があります。



2024年12月期 第3四半期

業績概要 (単位：百万円、%)

	2023年	2024年	前年同期比		3Q累計予想比			2024年	通期予想
	3Q累計	3Q累計	金額	(%)	予想	金額	(%)	期初	修正
売上高	20,165	20,817	+652	+3.2	21,780	△963	△4.4	31,005	30,000
戸建	10,017	9,683	△334	△3.3	10,100	△417	△4.1	14,408	13,450
建築物	5,917	6,454	+536	+9.1	7,188	△734	△10.2	10,394	9,890
防水	349	435	+86	+24.6	457	△21	△4.8	695	815
原料販売	1,277	1,432	+155	+12.1	1,664	△231	△13.9	2,235	2,235
副資材・機械・その他	2,603	2,811	+208	+8.0	2,369	+442	+18.7	3,271	3,610
売上原価	15,306	16,145	+838	+5.5	16,719	△574	△3.4	23,596	23,020
売上総利益	4,858	4,672	△185	△3.8	5,061	△388	△7.7	7,408	6,980
戸建	2,673	2,287	△386	△14.4	2,463	△176	△7.1	3,585	3,160
建築物	1,352	1,481	+129	+9.6	1,838	△356	△19.4	2,774	2,324
防水	△35	△6	+28	-	21	△28	-	38	52
原料販売	235	254	+18	+7.9	284	△30	△10.6	398	398
副資材・機械・その他	632	656	+23	+3.7	453	+202	+44.7	611	1,043
販売費及び一般管理費	2,658	3,151	+492	+18.5	3,090	+60	+2.0	4,308	4,380
営業利益	2,199	1,521	△678	△30.8	1,971	△450	△22.9	3,100	2,600
経常利益	2,225	1,548	△677	△30.4	1,971	△423	△21.5	3,100	2,600
当期純利益	1,509	1,043	△466	△30.9	1,330	△287	△21.6	2,092	1,755
1株当たり配当金 (円)								34.0	34.0

貸借対照表 (単位：百万円)

	2023年 12月31日	2024年 9月30日		2023年 12月31日	2024年 9月30日
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	2,033	2,018	買掛金	6,453	6,132
受取手形、売掛金及び契約資産	6,397	6,639	短期借入金	2,400	4,100
電子記録債権	1,098	960	流動負債合計	10,927	11,028
棚卸資産	2,209	2,104	固定負債		
未収入金	3,648	3,669	固定負債合計	159	107
流動資産合計	15,472	15,513	負債合計	11,087	11,135
固定資産			純資産の部		
有形固定資産	4,367	4,339	資本金	1,903	1,903
無形固定資産	85	82	資本剰余金	1,912	1,912
投資その他の資産	466	543	利益剰余金	7,523	7,562
固定資産合計	4,919	4,965	自己株式	△2,035	△2,035
資産合計	20,392	20,479	純資産合計	9,304	9,343
			負債純資産合計	20,392	20,479

Agenda

01 2024年12月期 第3四半期 決算概要

02 2024年12月期 業績予想の修正

03 戸建部門

04 建築物部門

05 防水部門、その他

06 中期経営計画について

07 Appendix

2024年12月期 業績予想の修正

売上高

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期			
	実績	期初予想	修正予想	修正額	比率 (%)
売上高	28,341	31,005	30,000	△1,005	△3.2
戸建	13,798	14,408	13,450	△958	△6.7
うち数量効果				△846	
うち価格効果				△112	
建築物	8,267	10,394	9,890	△504	△4.8
うち数量効果				△1,357	
うち価格効果				+853	
防水	489	695	815	+119	+17.1
原料販売	1,916	2,235	2,235	+0	+0.0
副資材・機械・その他	3,869	3,271	3,610	+338	+10.3
売上原価	21,417	23,596	23,020	△576	△2.4
売上総利益	6,924	7,408	6,980	△428	△5.8

戸建部門については、施工棟数が計画に及ばず、数量効果として846百万円の減額となります。施工単価については、断熱等級5が標準化されたものの、価格戦略などの影響で価格効果として112百万円の減額となり、合計で958百万円の減額となります。

建築物部門については、スポット工事等の獲得が計画に達しなかったため施工面積が不足し、数量効果として1,357百万円の減額となります。一方で、施工単価については、上級製品アクアモエンNEO工事のウエイトが高まったため、価格効果として853百万円の増額となり、合計で504百万円の減額となります。

2024年12月期 業績予想の修正

売上総利益 (単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期			
	実績	期初予想	修正予想	修正額	比率 (%)
売上総利益	6,924	7,408	6,980	△428	△5.8
売上総利益率	24.4%	23.9%	23.3%		△0.6
戸建	3,685	3,585	3,160	△424	△11.9
売上総利益率	26.7%	24.9%	23.5%		△1.4
建築物	1,963	2,774	2,324	△450	△16.2
売上総利益率	23.7%	26.7%	23.5%		△3.2
防水	△35	38	52	+14	+36.0
売上総利益率	△7.2%	5.6%	6.5%		+0.9
原料	342	2,235	2,235	+0	+0.0
売上総利益率	17.9%	17.8%	17.8%		+0.0
副資材・機械・その他	3,869	3,271	3,610	+269	+70.7
売上総利益率	25.0%	18.7%	28.9%		+10.2
販売費及び一般管理費	4,042	4,308	4,380	+71	+1.7
営業利益	2,881	3,100	2,600	△500	△16.1
経常利益	2,917	3,100	2,600	△500	△16.1
当期純利益	2,004	2,092	1,755	△337	△16.1

Agenda

01 2024年12月期 第3四半期 決算概要

02 2024年12月期 業績予想の修正

03 戸建部門

04 建築物部門

05 防水部門、その他

06 中期経営計画について

07 Appendix

戸建部門

売上高 9,683百万円

前年同期 10,017 百万円
 前年同期比 △334 百万円 △3.3 %
 売上総利益率 26.7 % ▶ 23.6 %

3Q累計予想 10,100 百万円
 予想比 △417 百万円 △4.1 %
 売上総利益率 24.4 % ▶ 23.6 %

修正予想 13,450 百万円
 残り 3,766 百万円
 売上総利益率 23.5 %

施工棟数 数量効果



- ・数量効果は△428百万円
- ・最重点ビルダーからの受注は大幅増
- ・広域展開ビルダーからの受注も増加傾向
- ・地域密着型工務店の受注が減少
- ・新規開拓が計画より遅れ気味

- ・数量効果は△440百万円
- ・地域密着型工務店の受注が減少
- ・新規開拓が計画より遅れ気味
- ・例年以上に4Qに工事が集中

- ・工事集中により施工棟数は回復傾向
- ・9月に見込んでいた新規大口先の本格施工が12月にずれ込む
- ・全般的に大手が一定のシェアを確保し、地域密着型工務店がシェアを落とす展開（当社の施工数が伸び悩む背景）

施工単価 価格効果



- ・価格効果は+94百万円
- ・断熱等級4 施工がほぼなくなる（前年は全工事数の3割程度）
- ・シェア拡大に向け価格戦略を実施

- ・価格効果は+23百万円
- ・ほぼ予想通り
- ・気密測定サービスが広がる

- ・シェア拡大施策継続のため平均価格は横ばいを想定
- ・等級6による価格効果は当期では僅少（2025年以降に本格拡大の見込み）

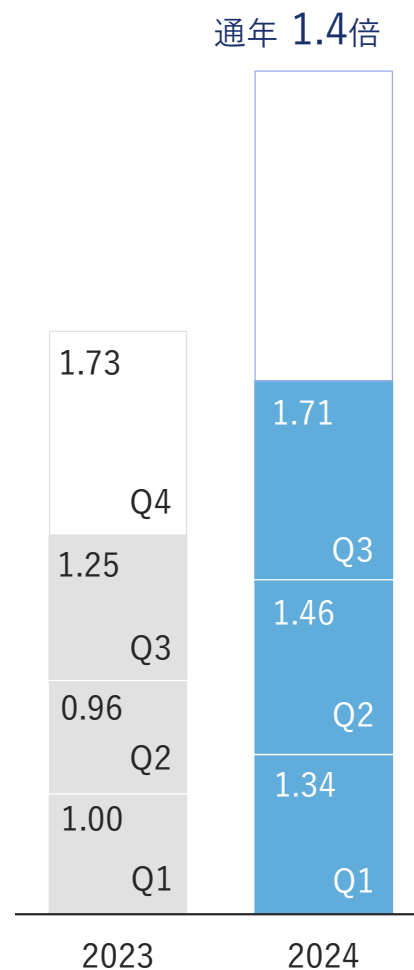
	FY2023 Q1	Q2	Q3	Q4	累計	FY2024 Q1	Q2	Q3	予想 Q4	予想 累計
売上高	3,221	3,287	3,509	3,780	13,798	2,985	3,276	3,421	3,766	13,450
売上総利益	876	866	929	1,012	3,685	730	777	778	873	3,160
施工棟数 (YoY)	△13%	△13%	△8%	△4%	△9%	△11%	△1%	△0%	+6%	△1%
施工単価 (YoY)	+14%	+9%	+9%	+7%	+10%	+5%	+1%	△2%	△6%	△1%



取り組み

断熱等級 6 の広がり

(2023年12月期第1四半期を1とした場合の倍率)



最多施工価格は「断熱等級5」の1.5~2倍程度

アクアフォームNEOにアクアフォームLITE等を組み合わせることで競争力がある（価格を抑えた）仕様も可能



UA値
0.46

組み合わせ例

屋根 アクアフォームLITE

壁 アクアフォームNEO

床 フェノールフォーム


東京ゼロエミ住宅の基準変更

2024年10月1日より施行。

基準変更により断熱性能6相当が最上級から中間グレードへ

水準 3	断熱等級 6 相当	UA値 0.46	BEI 0.60 以下
水準 2	断熱等級 5 相当	UA値 0.60	BEI 0.65 以下
水準 1	断熱等級 4-5 相当	UA値 0.70	BEI 0.70 以下



水準 A	断熱等級 6-7 相当	UA値 0.35	BEI 0.55 以下
水準 B	断熱等級 6 相当	UA値 0.46	BEI 0.60 以下
水準 C	断熱等級 5 相当	UA値 0.60	BEI 0.70 以下
 いずれの水準も 再エネ設備（太陽光発電設備等）を原則設置			

省エネ住宅*の実現には

*エネルギー消費が少なくても快適に過ごせる住宅

高断熱（断熱性能）

高断熱材を使用し外部からの熱の侵入を防ぐ。これにより、冷暖房のエネルギー効率が向上し、居住空間内の温度を安定させる。

高气密（気密性能）

建物の気密性を高めることで、外部からの空気の流入や逃げを最小限にする。これにより、断熱性能を最大限に活かし、エネルギーの無駄を減少させる。



省エネ住宅

=



+



快適さに直結する 気密性能の違い

- ・天井に断熱追加
- ・内窓設置
- ・床に断熱+気密（ウレタンフォーム施工）



断熱+気密改修前

室内の温度にムラがある。（青色は温度が低い）
気密処理が不十分なため冷たい外気が侵入してくる。



断熱+気密改修後

室内の温度差が少ない。
丁寧な気密処理を行ったため熱損失が少ない。

気密性能に関する規定

$$C\text{値} = \frac{\text{家全体の隙間面積 (cm}^2\text{)}}{\text{延べ床面積 (m}^2\text{)}}$$

C値は低いほど気密性が高い。



C値 ≤ 10.0

気密性に配慮していない一般的な住宅のイメージ。

C値 ≤ 5.0

次世代省エネ基準（平成11年＝1999年）において、寒冷地（現在の1地域、2地域）以外で基準とされていた値。

2009年の省エネ法改正に伴い本基準は撤廃。

C値 ≤ 2.0

次世代省エネ基準（平成11年＝1999年）において、寒冷地（現在の1地域、2地域）で基準とされていた値。

2009年の省エネ法改正に伴い本基準は撤廃。

C値 ≤ 1.0

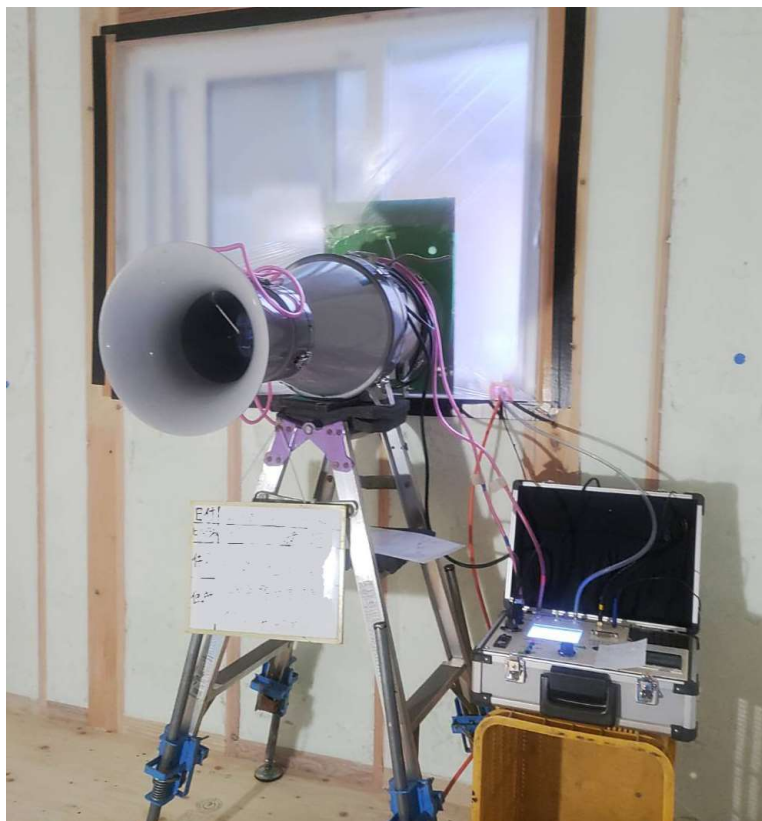
快適に暮らすために確保しておきたい水準。地方自治体の省エネ住宅施策で規定されているケースが多い。

やまがた省エネ健康住宅
信州健康ゼロエネ住宅
雪国型ZEH（新潟県）
よこはま省エネ住宅
とっとり健康省エネ住宅
KitaQ ZEH（北九州市）

C値 ≤ 0.5

諸外国で採用している厳しい基準をと比較しても遜色のない高い気密性を有する水準。

札幌版次世代住宅



取り組み

気密測定サービスの 拡大加速

戸建部門の全施工棟数に対する導入割合（見込み）

2023年	2024年	2025年
4.4%	10%超	20%超

- ・大手ビルダーが気密測定を標準化
- ・他の工務店にも気密測定への関心が広がる
- ・当社は業界No.1の気密測定体制を構築

Agenda

01 2024年12月期 第3四半期 決算概要

02 2024年12月期 業績予想の修正

03 戸建部門

04 建築物部門

05 防水部門、その他

06 中期経営計画について

07 Appendix

建築物部門 売上高 6,454百万円

前年同期	5,917 百万円		
前年同期比	+536 百万円	+9.1 %	
売上総利益率	22.9 %	▶	23.0 %

3Q累計予想	7,188 百万円		
予想比	△734 百万円	△10.2 %	
売上総利益率	25.6 %	▶	23.0 %

修正予想	9,890 百万円
残り	3,435 百万円
売上総利益率	23.5 %

施工面積 数量効果



- ・数量効果は+401百万円
- ・製造設備等大型物件が増加
- ・他社事情で当社に「手待ち（遅れ）」が発生

施工単価 価格効果



- ・価格効果は+135百万円
- ・2023年後半の価格改定効果が一部寄与

- ・数量効果は△1,241百万円
- ・他社事情で当社に「手待ち（遅れ）」が発生
- ・着工の遅れにより売上計上も遅れが発生
- ・遅延により工程が確定できず、スポット工事の獲得が進まず
- ・価格効果は+507百万円

- ・4Qに大型工事の売上計上が集中
- ・3Qまでの遅れをカバーするには至らず

2025年度の見通し


- ・三大都市圏を中心に需要は引き続き旺盛
- ・9月末時点の2025年度の「受注＋内定」は前年同時期の1.8倍を確保


	FY2023 Q1	Q2	Q3	Q4	累計	FY2024 Q1	Q2	Q3	予想 Q4	予想 累計
売上高	1,912	1,936	2,068	2,350	8,267	1,929	2,064	2,460	3,435	9,890
売上総利益	361	450	540	610	1,963	454	443	583	842	2,324
施工面積 (YoY)	△4%	△9%	△19%	△14%	△12%	△8%	+12%	+17%	+39%	+16%
施工単価 (YoY)	+40%	+50%	+41%	+24%	+37%	+10%	△5%	+1%	+5%	+3%


首都圏の再開発 地方の半導体工場


都市名の比率は2024年度基準地価の上昇率（全用途）

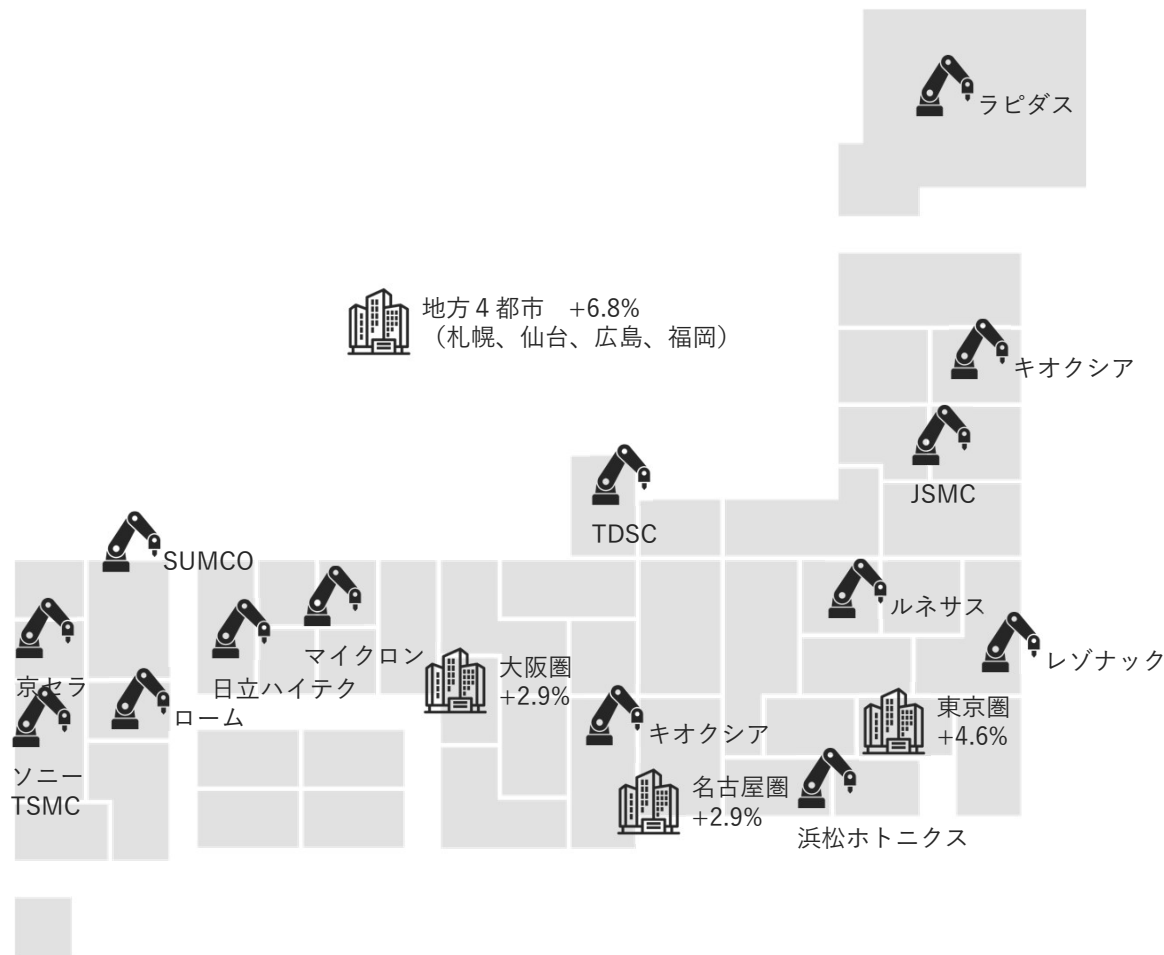
2024年以降の半導体関連の大型設備投資
（当社の受注をお約束するものではありません）

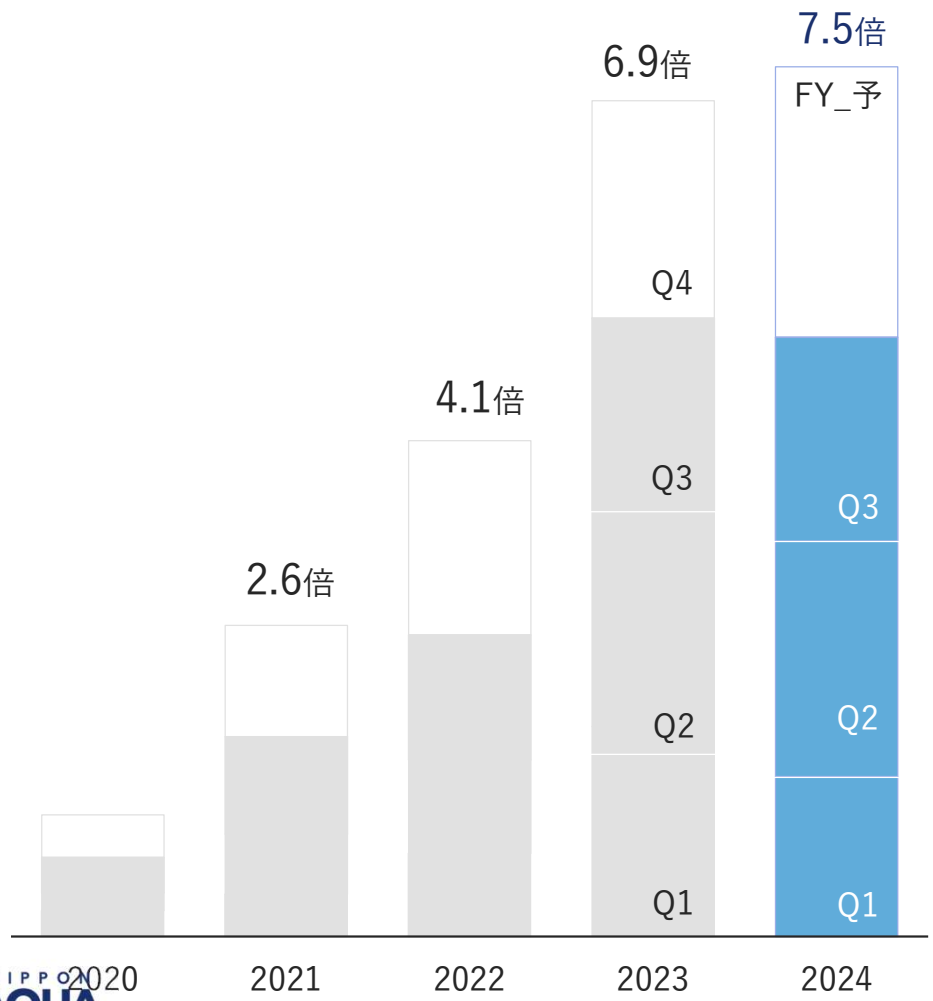
 全国各地で都市再開発が加速
三大都市圏や地方4市は特に顕著

 国策としての先端分野への投資
製造設備の国内回帰

 半導体工場の建設に合わせた
周辺地域のインフラ、商業施設、
住宅などの整備も進む

 大型データセンター（20か所程度
開設見込み）も有望な対象先






 取り組み

不燃断熱材の販売金額

(2020年12月期を1とした場合の倍率)

 不燃断熱材とは？

国土交通大臣認定の不燃性能を有した高性能断熱材

火災リスクをなくしたいという建築現場の要望から生まれ、建設現場での溶接や鉄骨溶断、溶接の火花等に高い対炎性能を発揮



Agenda

01 2024年12月期 第3四半期 決算概要

02 2024年12月期 業績予想の修正

03 戸建部門

04 建築物部門

05 防水部門、その他

06 中期経営計画について

07 Appendix

防水部門

売上高 435百万円

前年同期	349 百万円		
前年同期比	+86 百万円	24.6 %	
売上総利益率	△10.1 %	▶	△1.5 %

3Q累計予想	457 百万円		
予想比	△21 百万円	△4.8 %	
売上総利益率	4.8 %	▶	△1.5 %

修正予想	815 百万円
残り	379 百万円
売上総利益率	6.5 %

特筆事項

- ・ 施工実績や展示会効果で認知度向上
- ・ プラント様（福島県）からリピート受注
- ・ 非住宅の改修案件が増加

- ・ 計画線上で推移
- ・ 天候不順による着工遅れがあるものの解消済み
- ・ 2025年施工予定の大型案件の獲得が進む
大手小売店チェーン
サードパーティーロジスティクス

- ・ 期初計画を上回る着地見込み
- ・ サードパーティーロジスティクス等
期中獲得案件の売上計上が要因

部門好調の背景

- ・ 競合からの人材獲得などを通じて部門を強化
- ・ 営業力や施工の提案力が向上
- ・ 施工実績の積み上がりと併せて当社の認知度が高まる

	FY2023 Q1	Q2	Q3	Q4	累計	FY2024 Q1	Q2	Q3	予想 Q4	予想 累計
売上高	126	122	100	139	489	136	124	174	379	815
うち戸建住宅	90	107	91	123	412	110	93	85	130	420
うち非住宅	36	14	9	15	76	25	31	88	249	395
売上総利益	△21	△12	△1	0	△35	2	△10	0	59	52

2024年12月期 第3四半期

原料販売

1,432百万円



前年同期	1,277 百万円		
前年同期比	+155 百万円	+12.1 %	
売上総利益率	18.4 %	▶	17.7 %

- ・建築物向け原料販売が伸長

3Q累計予想	1,664 百万円		
予想比	△231 百万円	△13.9 %	
売上総利益率	17.1 %	▶	17.7 %


- ・全般的な建築物の着工遅れに伴い販売先が手待ちとなり、原料購入を延期

修正予想	2,235 百万円
残り	803 百万円
売上総利益率	17.8 %

- ・購入延期先の着工開始に伴い3Qまでの遅れはカバーできる見込み

副資材・機械
その他

2,811百万円



前年同期	2,603 百万円		
前年同期比	+208 百万円	+8.0 %	
売上総利益率	24.3 %	▶	23.3 %

- ・副資材販売キャンペーン実施で伸長
- ・施工人員増加に伴い吹付機械販売が伸長

3Q累計予想	2,369 百万円		
予想比	+442 百万円	+18.7 %	
売上総利益率	19.1 %	▶	23.3 %

- ・副資材販売キャンペーン実施で伸長
- ・吹付機械のモデルチェンジ需要が継続

修正予想	3,610 百万円
残り	798 百万円
売上総利益率	28.9 %

- ・副資材販売キャンペーン強化等により修正計画の達成は可能

	FY2023 Q1	Q2	Q3	Q4	累計	FY2024 Q1	Q2	Q3	予想 Q4	予想 累計
原料販売	337	428	510	638	1,916	414	507	510	803	2,235
売上総利益	63	82	89	107	342	74	89	89	144	398
副資材・機械・その他	770	1,015	817	1,266	3,869	807	866	1,137	798	3,610
売上総利益	177	279	175	336	968	181	162	312	287	943



取り組み

チップウレタン事業の展開



日本アクアは、環境省より発泡ポリウレタン断熱材および養生材などの廃棄物について広域認定を受けており、全国の建設現場から回収を行っています。回収した廃棄物は、全国4ヶ所のリサイクル工場に集約し、再生処理を行います。

日本アクアの業容拡大に伴い、回収廃棄物が増加する中で、アクアブローだけでは賅いきれない廃棄物端材の余剰分をパートナーシップ会社に売却し、資源の有効活用を図っていきます。



ブローイング断熱材「アクアブロー」として販売



ウレタン事業専門国内大手会社様とのパートナーシップの下チップウレタン事業を展開（自動車内装部品等に活用）

Agenda

01 2024年12月期 第3四半期 決算概要

02 2024年12月期 業績予想の修正

03 戸建部門

04 建築物部門

05 防水部門、その他

06 中期経営計画について

07 Appendix

各部門の見通し

中期経営計画は、右記の通り、当初見込みより戸建部門の計画を見直し、好調な防水部門やその他売上高（副資材・吹付機械などの商品販売）を増額する方向です。



戸建部門

- ・市場環境は当初計画発表時と比較して一層厳しい
- ・当初計画の毎年施工棟数5%増は高いハードルがある
- ・2025年から断熱等級6の本格化と気密測定拡大により施工単価上昇
- ・価格競争を想定したコストダウンが課題



建築物部門

- ・市場環境は引き続き堅調
- ・特に三大都市圏は活況が続く
- ・当初計画の毎年20%以上の成長は可能
- ・手待ち（着工遅れ）対策が課題
- ・経営資源の配分（人員）強化



防水部門

- ・市場環境は堅調
- ・建設費用の高騰等により改修需要も高まる
- ・当社の存在感向上により大型改修案件が増加中
- ・売上目標を上方修正
- ・経営資源の配分強化、M&Aも検討



原料販売 副資材・機械・その他

- ・原料販売：市場のポテンシャルはあるものの、仕組み作りを要するため当初計画から変更なし
- ・機械販売：施工体制の増強に伴い増加（当初計画より強含み）
- ・施工体制の増強は継続

中期経営計画の修正と累進配当制度の導入

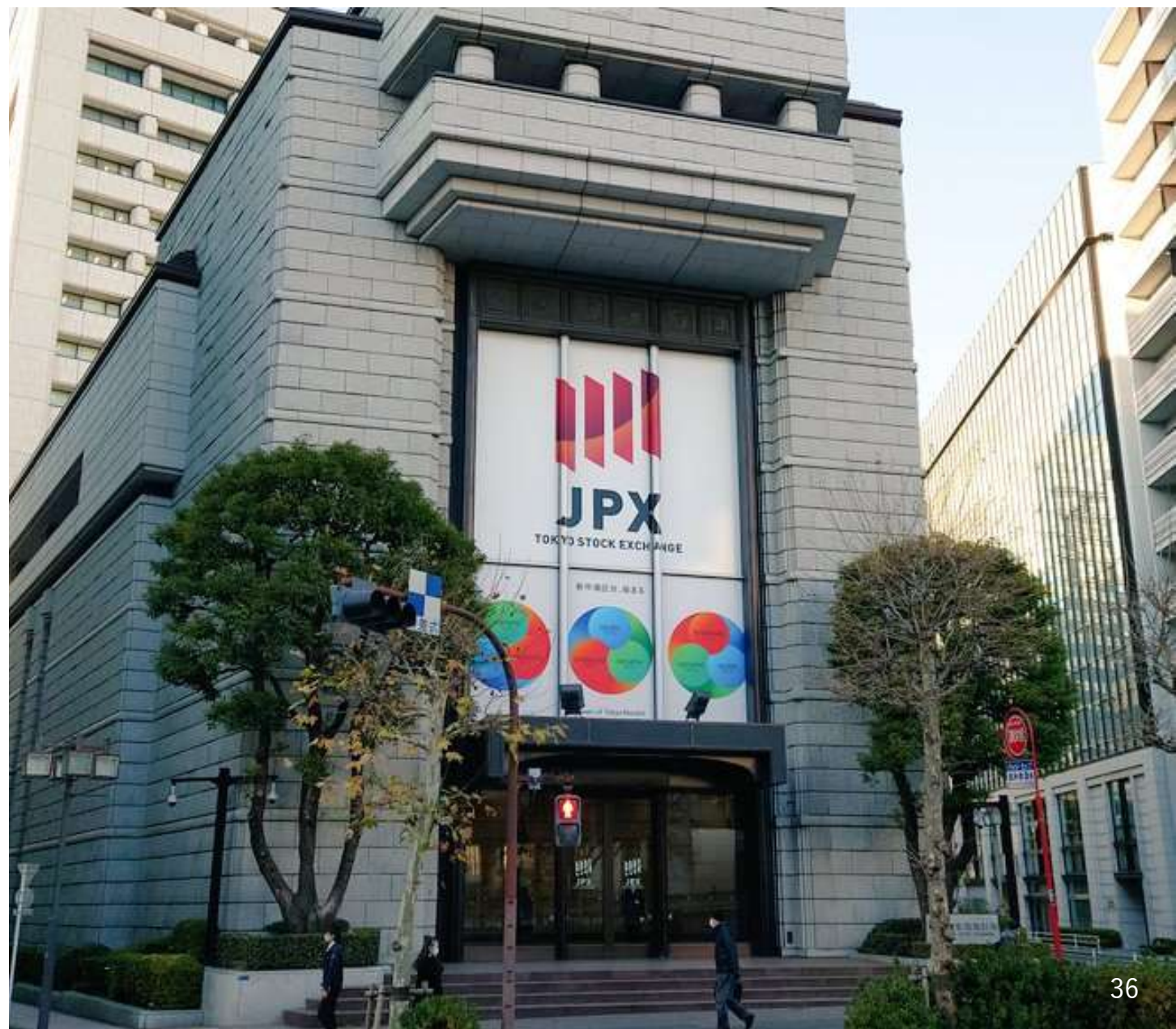
2024年12月期の決算発表時（2025年2月上旬）に修正案を開示します。

現時点では利益見通しを算定できないため、累進配当制度を導入し、1株当たりの配当金に下限を設定いたします。

	当初計画			検討骨子		
	2024年	2025年	2026年	2024年	2025年	2026年
売上高	31,005	35,632	41,021	30,000	33,000-	37,000-
戸建	14,408	15,367	16,503	13,450		
建築物	10,394	12,510	15,119	9,890		
防水	695	1,500	2,500	815		
原料販売	2,235	2,578	2,964	2,235		
副資材・機械・その他	3,271	3,677	3,935	3,610		
営業利益	3,100	3,741	4,512	2,600		
経常利益	3,100	3,741	4,512	2,600		
当期純利益	2,092	2,525	3,045	1,755		
1株当たり配当金	34.0	40.0	49.0	34.0	34.0-	34.0-



今後もプライム上場企業として
持続的成長の実現を目指します。



Agenda

01 2024年12月期 第3四半期 決算概要

02 2024年12月期 業績予想の修正

03 戸建部門

04 建築物部門

05 防水部門、その他

06 中期経営計画について

07 Appendix

会社概要

経営理念

人と地球に優しい住環境を創ることで社会に貢献

ビジョン

我々は、断熱技術の革新によりエネルギー総需要を削減し、地球温暖化防止対策と同時に、人々の健康で快適な生活を実現するために存在している。

会社名	株式会社日本アクア（Nippon Aqua Co., Ltd.）	
本店所在地	東京都港区港南2丁目16-2 太陽生命品川ビル20階	
設立年月日	2004年11月29日	
事業内容	建築断熱用硬質ウレタンフォームの開発・製造・販売・施工 住宅省エネルギー関連部材の開発・製造・販売	
役員	代表取締役社長	中村 文隆
	専務取締役	村上 友香
	取締役	永田 和久
	取締役	藤井 豪二
	取締役	宇佐美 計史
	社外取締役	高橋 義昭
	社外取締役	剣持 健
	社外取締役 常勤監査等委員	玉神 順一
	社外取締役 監査等委員	裕田 由貴
	社外取締役 監査等委員	樋口 尚文
	社外取締役 監査等委員	仁科 秀隆
資本金	19億 3 百万円	
従業員数	602名（単体）	

商品展開

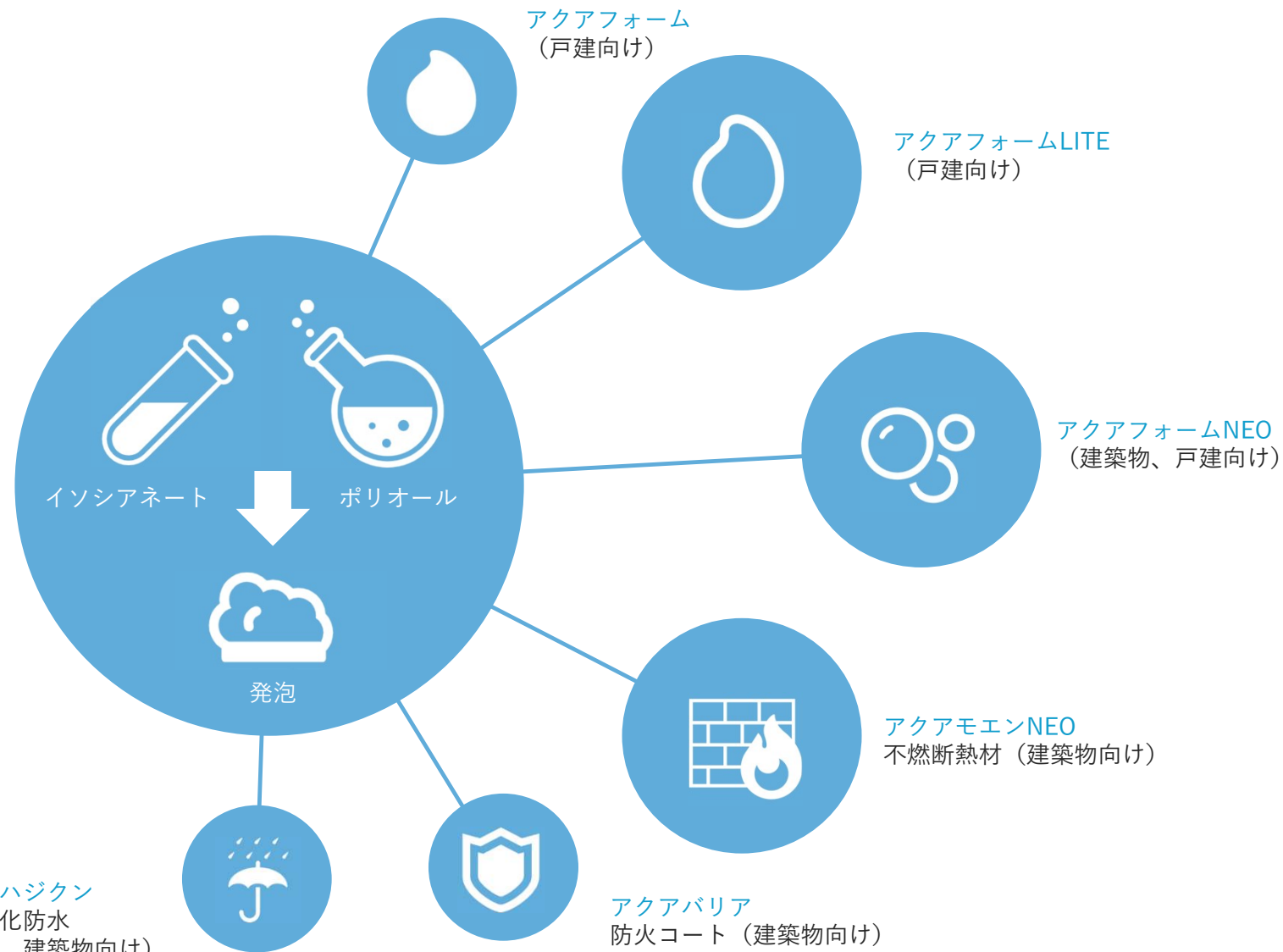
2液性ポリウレタンを軸に展開

ポリオール
主剤となる水酸基を持つ有機化合物。ポリオールの分子構造や分子量などを変更することで、ウレタンの硬さや柔軟性などの物性を調整する。

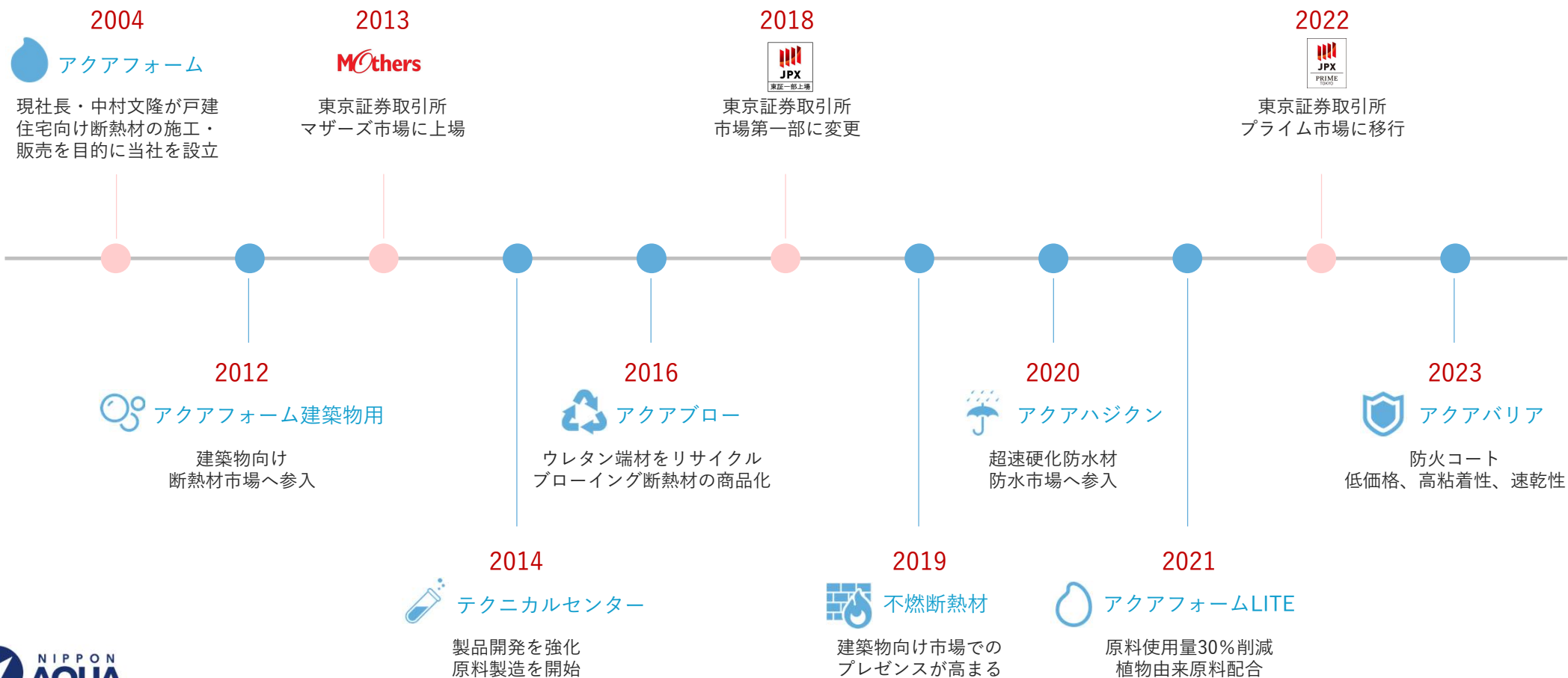
イソシアネート
NCO基を含む有機化合物。攪拌などによってポリオールと反応しウレタン結合を形成。

ポリアミン
複数のアミン基を持つ有機化合物。イソシアネートと反応することでアクアハジクン（ポリウレタ樹脂）を形成。

アクアハジクン
超速硬化防水
(戸建、建築物向け)



沿革



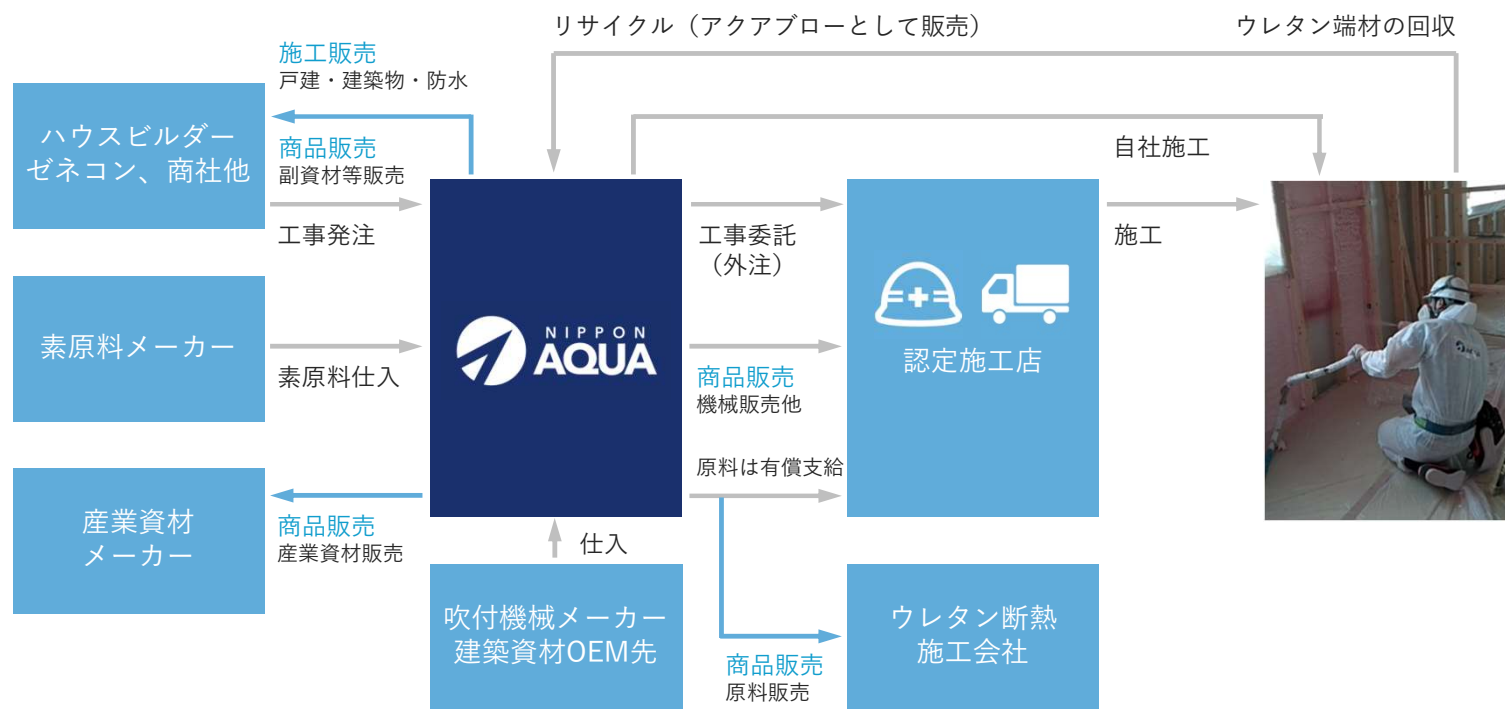
原料開発から 施工・リサイクルまで

唯一無二のビジネスモデル



ビジネススキーム

断熱材の工事は当社が一括して請け負い
自社及び認定施工店で施工



認定施工店とは

業務委託
完全歩合制

吹付機械（施工機材）の購入
（2トントラックが必要）



営業不要

施工レベルに応じた
工事物件を紹介



原料を有償支給

原料を支給し施工金額から
差し引くことで資金負担を軽減



ロイヤリティなし

加盟金、保証金はありませ



技術研修

育成専門部署が
基礎から実践まで幅広くサポート

業績推移

(単位：百万円)

MOthers



	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
業績推移													
売上高	5,475	6,488	9,825	13,020	14,046	15,608	18,052	19,417	21,366	21,872	23,903	25,670	28,341
売上総利益	1,686	1,904	2,444	2,856	3,137	4,027	4,305	3,891	5,403	5,310	4,739	5,784	6,924
売上総利益率	30.8%	29.3%	24.9%	21.9%	22.3%	25.8%	23.9%	20.0%	25.3%	24.3%	19.8%	22.5%	24.4%
営業利益	809	662	956	944	1,013	1,404	1,313	766	1,909	1,896	1,412	2,329	2,875
経常利益	807	662	925	937	1,016	1,404	1,419	764	1,909	1,911	1,429	2,359	2,917
経常利益率	14.7%	10.2%	9.4%	7.2%	7.2%	9.0%	7.9%	3.9%	8.9%	8.7%	6.0%	9.2%	10.3%
当期純利益	457	364	512	529	137	979	941	489	1,275	1,342	953	1,549	2,004

品目別売上高

戸建		5,830	8,044	8,483	9,414	10,903	11,552	12,257	13,244	12,448	13,521	13,873	13,798
建築物		440	883	2,392	2,858	2,601	2,715	3,331	4,144	4,848	5,371	6,838	8,267
防水											128	315	489
原料販売							613	561	933	1,137	1,098	1,211	1,916
副資材・機械・その他		218	897	2,144	2,133	2,103	3,171	3,267	3,043	3,438	3,783	3,430	3,869

品目別売上総利益

戸建					2,305	3,038	2,790	2,217	3,544	3,183	2,772	3,542	3,689
建築物					183	419	526	551	832	1,004	822	1,206	1,963
防水											20	△16	△35
原料販売							140	113	198	212	177	361	342
副資材・機械・その他					648	569	848	1,009	830	909	946	690	968

その他の主要な指標

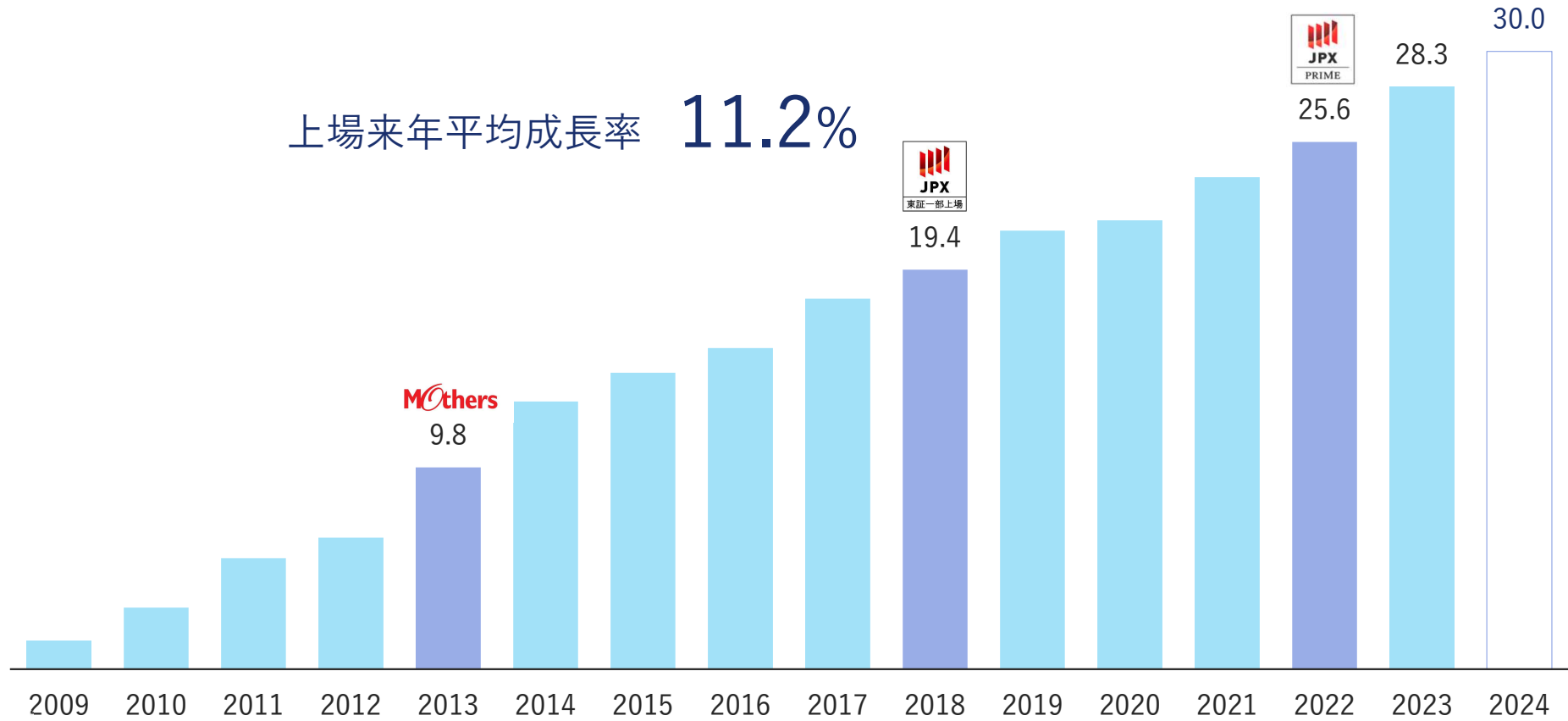


	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
資産、負債及び資本													
純資産額	715	1,080	5,103	5,529	5,590	6,663	5,508	5,885	6,843	7,638	7,951	7,966	9,304
自己資本利益率 (ROE)	94.0%	40.6%	16.6%	10.0%	2.5%	16.0%	15.5%	8.6%	20.0%	18.5%	12.2%	19.5%	23.2%
総資産額	1,993	2,787	7,982	9,138	11,254	12,596	12,806	14,381	15,379	16,021	18,279	21,969	20,392
総資産回転率 (回)	3.20	2.71	1.82	1.52	1.38	1.31	1.42	1.43	1.44	1.39	1.39	1.28	1.34
自己資本比率	35.9%	38.8%	63.9%	60.5%	49.7%	52.9%	43.0%	40.9%	44.5%	47.7%	43.5%	36.3%	45.6%
有利子負債					1,433	834	2,370	2,776	2,136	2,400	3,166	6,033	2,400
従業員数													
営業			160	184	182	206	233	208	218	218	189	209	215
工務			234	246	206	185	132	180	188	196	168	156	220
管理			21	20	35	27	62	57	69	73	81	58	66
合計	194	298	415	450	423	418	427	445	475	487	438	423	501
株式関係 (2015年1月1日付の1:5分割考慮済)													
期末株価 (円)			663	845	438	414	498	437	627	649	687	828	887
時価総額			22,892	29,176	15,209	14,960	18,038	15,180	21,792	22,559	23,880	28,781	30,832
1株当たり純資産 (円)			147.81	160.15	161.01	184.40	171.31	182.36	211.88	236.46	246.09	254.41	296.24
1株当たり配当金 (円)			3.00	3.00	3.00	3.00	4.00	10.00	17.00	20.00	20.00	24.00	32.00
1株当たり当期純利益 (円)			20.61	15.33	3.97	27.61	27.84	15.19	39.50	41.57	29.52	47.99	63.83
株価収益率 (PER) (倍)			32.20	55.10	110.30	15.00	17.90	28.80	15.90	15.60	23.30	17.30	13.90

update

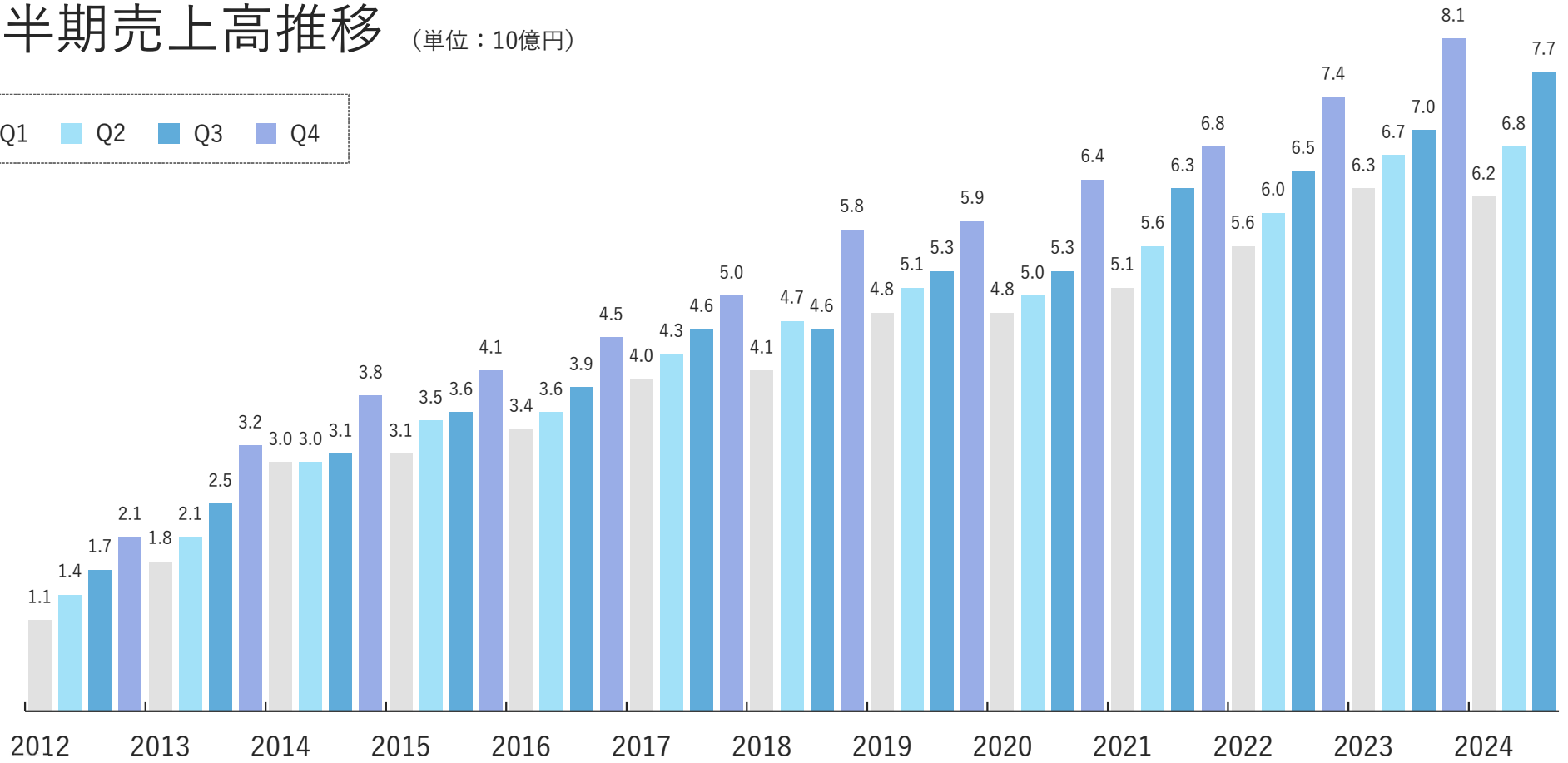
売上高推移 (単位：10億円)

上場来年平均成長率 **11.2%**



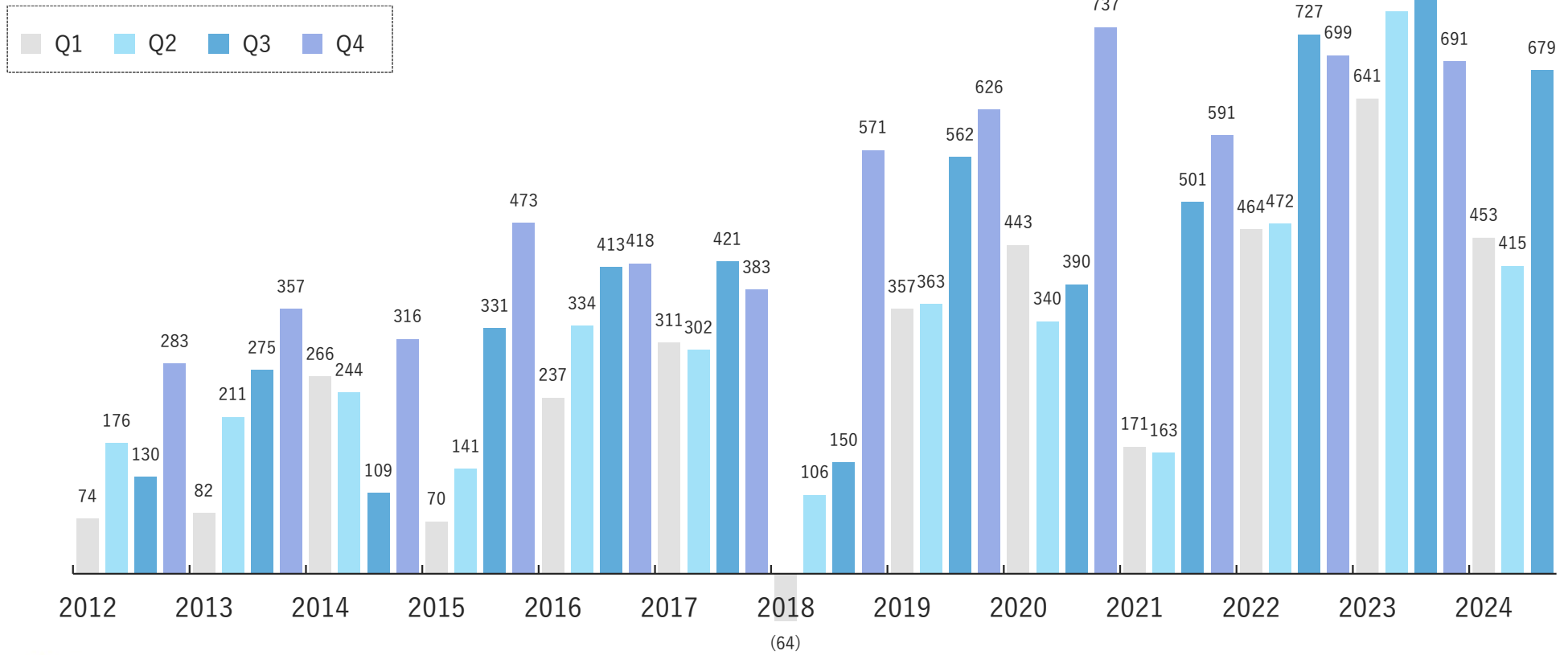
update

四半期売上高推移 (単位：10億円)



update

四半期經常利益推移 (単位：百万円)



主力 2 製品の熱伝導率が 変わり断熱性能が向上

同じ厚みでさらに高い断熱性能を実現

熱伝導率の改善（断熱性能向上）とは

熱の伝わりやすさを数値で表したものを、熱伝導率という。熱伝導率は、物質の厚さが 1 m で両面の温度差が 1°C のとき、1 m² あたりにどれくらいの熱量 (W) が伝わるかを示しており、単位は W/(mK) 【ワット毎メートル毎ケルビン】で表される。

U 値（熱貫流率）の簡易的な求め方（UA 値は各部位の U 値の平均）

U 値 (W/m²K) = 1/熱抵抗値

熱抵抗値 (m²K/W) = 材質の厚み (m) / 熱伝導率 (W/mK)

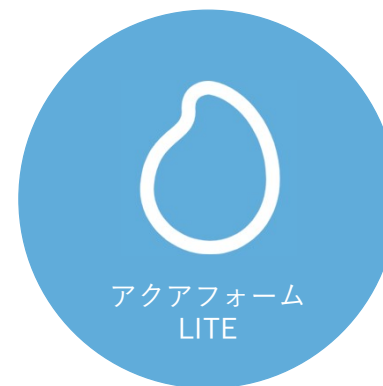


0.036 ▶

0.033 W/mK

U 値=0.383 (85mm 吹付で計算)

業界最高水準



0.038 ▶

0.036 W/mK

U 値=0.423 (85mm 吹付で計算)

熱伝導率と断熱材の厚み

アクアフォームLITE（厚み85mm）と同レベルの断熱性能にするには

	 アクアフォーム NEW!	高性能 グラスウール40K	 アクアフォーム LITE NEW!	高性能 グラスウール24K	高性能 グラスウール16K
熱伝導率	 0.033 W/mK	 0.034 W/mK	 0.036 W/mK	 0.036 W/mK	 0.038 W/mK
厚み	 77.9 mm ポイント!	 80.2 mm	 85.0 mm	 85.0 mm	 89.7 mm
重さ	 14.0 kg/m ² ポイント!	 40.0 kg/m ²	 10.0 kg/m ² ポイント!	 24.0 kg/m ²	 16.0 kg/m ²



市場環境

脱炭素社会に向けた 住宅・建築物

2030年度46%削減目標

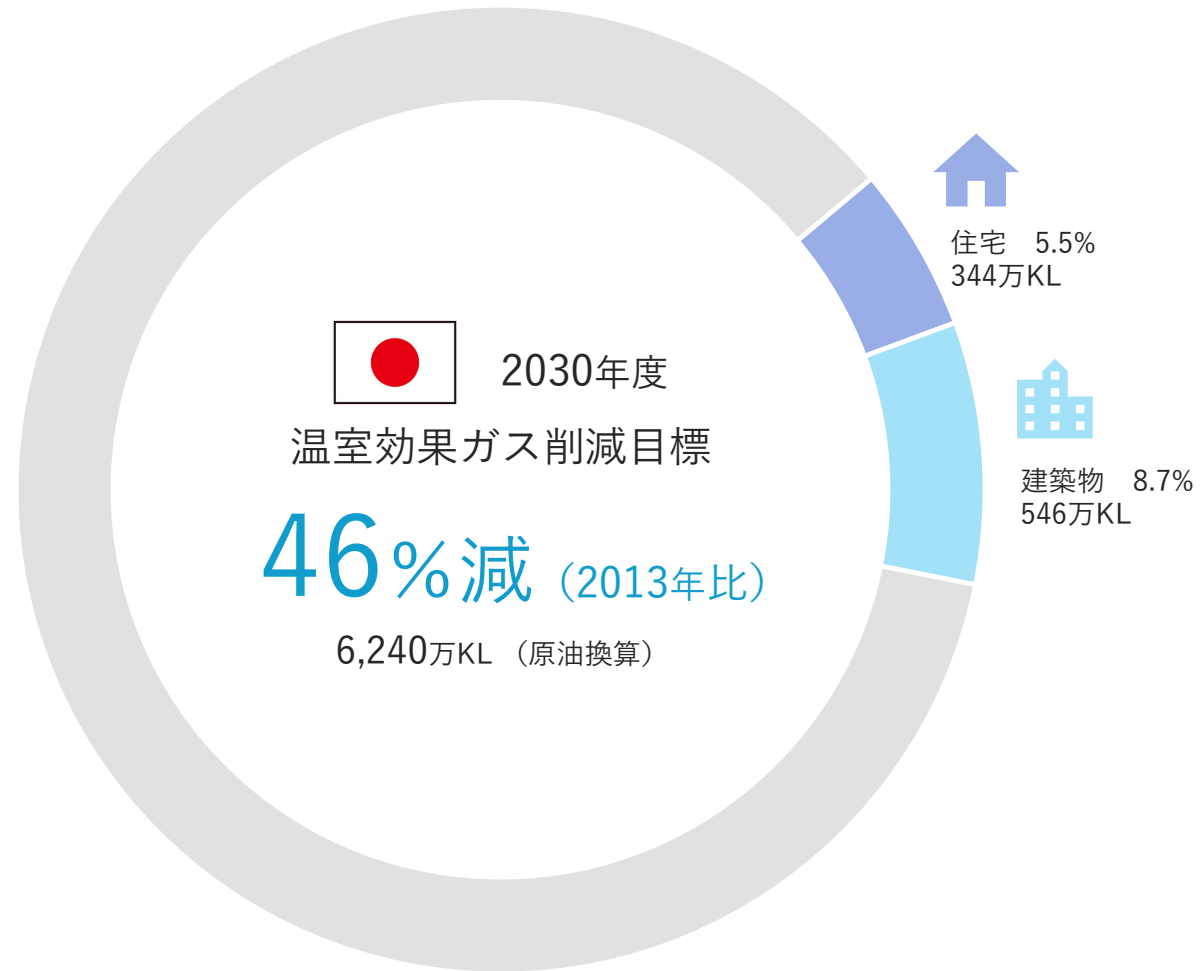
- ・原油換算で6,240万KLの削減

うち住宅

- ・新築住宅における省エネルギー性能の向上 253万KL
- ・既存住宅の断熱改修 91万KL

うち建築物

- ・新築建築物における省エネルギー性能の向上 403万KL
- ・既存建築物の省エネルギー化及び改修 143万KL





市場環境

2030年に目指すべき 住宅・建築物の姿



新築の住宅・建築物

ZEH、ZEB水準の省エネ性能を確保



新築の戸建住宅

60%において太陽光発電設備を導入



義務基準をZEH水準まで引き上げ

断熱等性能等級5（6地域のUA値=0.60）
BEI=0.8



義務基準をZEB水準まで引き上げ

中大規模は用途に応じてBEI=0.6/0.7
小規模はBEI=0.8



融資や税制による支援



省エネ性能表示の施行



地方自治体による推進



機器や建材の性能向上

ZEHとは

ゼッチ：ネット・ゼロ・エネルギーハウス

住宅部門の省エネ性能の向上の具体策として、ZEHの普及がある。

ZEHとは、住宅で使う一次エネルギーの年間消費量を概ねゼロにするものであり、断熱、省エネ、創エネの組み合わせで実現。

建築物においてはZEB（ゼブ）と呼ばれるZEH同様の取り組みが進められている。



省エネ性能表示制度

住宅・建築物のゼロ・エネルギー化のために必要なのは、誰もが「省エネ性能で建物を選べる」ようにすること。

2024年4月から住宅・建築物を販売・賃貸する事業者は、省エネ性能ラベルの表示が努力義務となる。



エネルギー消費性能とは



一次エネルギー消費量等級

$$BEI = \frac{\text{設計一次エネルギー消費量 (省エネ手法を考慮したエネルギー消費量)}}{\text{基準一次エネルギー消費量 (標準的な仕様を採用した場合のエネルギー消費量)}}$$

*誘導基準とは
省エネ性能の向上の促進を誘導すべき基準で、省エネ性能向上計画の認定に当たって適合しなければならないエネルギー消費性能とされている。建築物省エネ法に基づいて定められている。2016年4月1日から施行。

断熱性能とは

	誘導基準					最高等級
等級 1	等級 2	等級 3	等級 4	等級 5	等級 6	等級 7
6 地域 (東京他)	UA値 1.67	UA値 1.54	UA値 0.87	UA値 0.60	UA値 0.46	UA値 0.26
6 地域 (東京他)		η AC値 3.8	η AC値 2.8	η AC値 2.8	η AC値 2.8	η AC値 2.8
				ZEH	HEAT20 G2	HEAT20 G3

断熱等性能等級

UA値 = 外皮平均熱貫流率
ユーエー (建物からの熱の逃げやすさ)

×

η AC値 = 冷房期の平均日射熱取得率
イータエシー (建物への日射熱の入りやすさ)

断熱地域区分と断熱等性能等級

外皮性能レベル

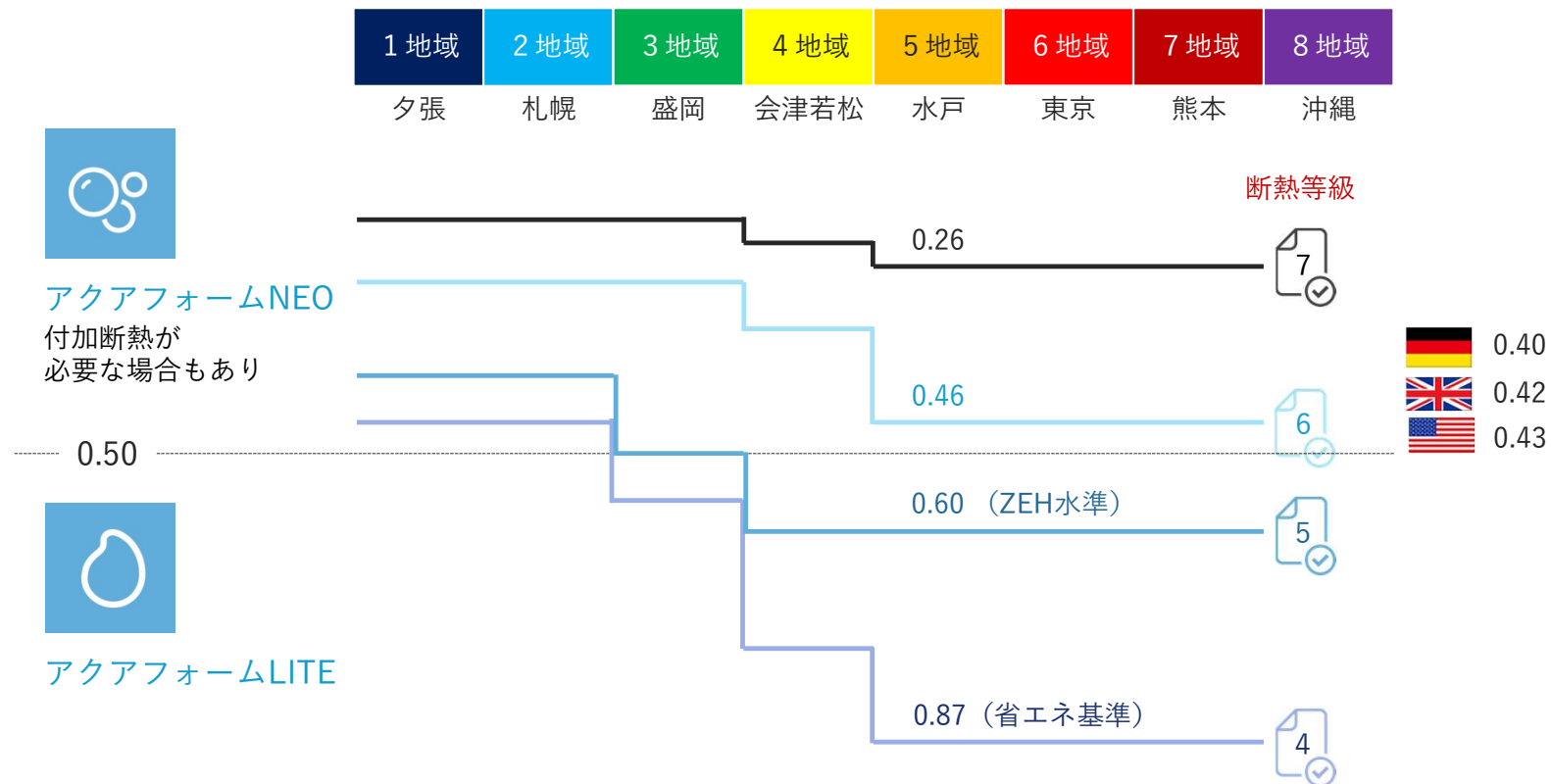
戸建住宅の断熱等性能等級（以下、断熱等級）の上位化およびZEHの普及が当社に与える影響。

断熱等級の基準は全国统一されたものではなく、気候などにより地域が区分されている。（各地域については代表都市を参考）

東京、名古屋、大阪、横浜、神戸など大都市の多くは6地域。

同じ断熱等級5でも地域によってUA値（外皮平均熱貫流率）は異なり、数字が小さい方が高い断熱性能を求められる。

（単位：UA値）





断熱性能等級による仕様への影響

東京都など6地域



断熱等級4
省エネ基準



アクアフォームLITE



金属 複層 Low-E



断熱玄関ドア

断熱等級が上位化すると断熱材だけでなく、ドアやサッシの断熱性能も高める必要があり、省エネ基準（断熱等級4）より施工金額が高額になる。



断熱等級5
ZEH水準



アクアフォームLITE



アクアフォーム



金属・樹脂 複層 Low-E



断熱玄関ドア

当社の試算では東京都など6地域における標準的な戸建住宅の場合、ZEH水準（等級5）になると断熱材の厚みが増すため施工単価は省エネ基準（等級4）の1.2～1.5倍。



断熱等級6
東京ゼロエミ住宅等



アクアフォーム*



アクアフォームNEO



金属・樹脂 三層 Low-E（2枚）



断熱玄関ドア

東京ゼロエミ住宅等（等級6）になるとアクアフォームあるいは、上位製品のアクアフォームNEOを使用、施工単価は省エネ基準（等級4）の1.7～3.0倍。

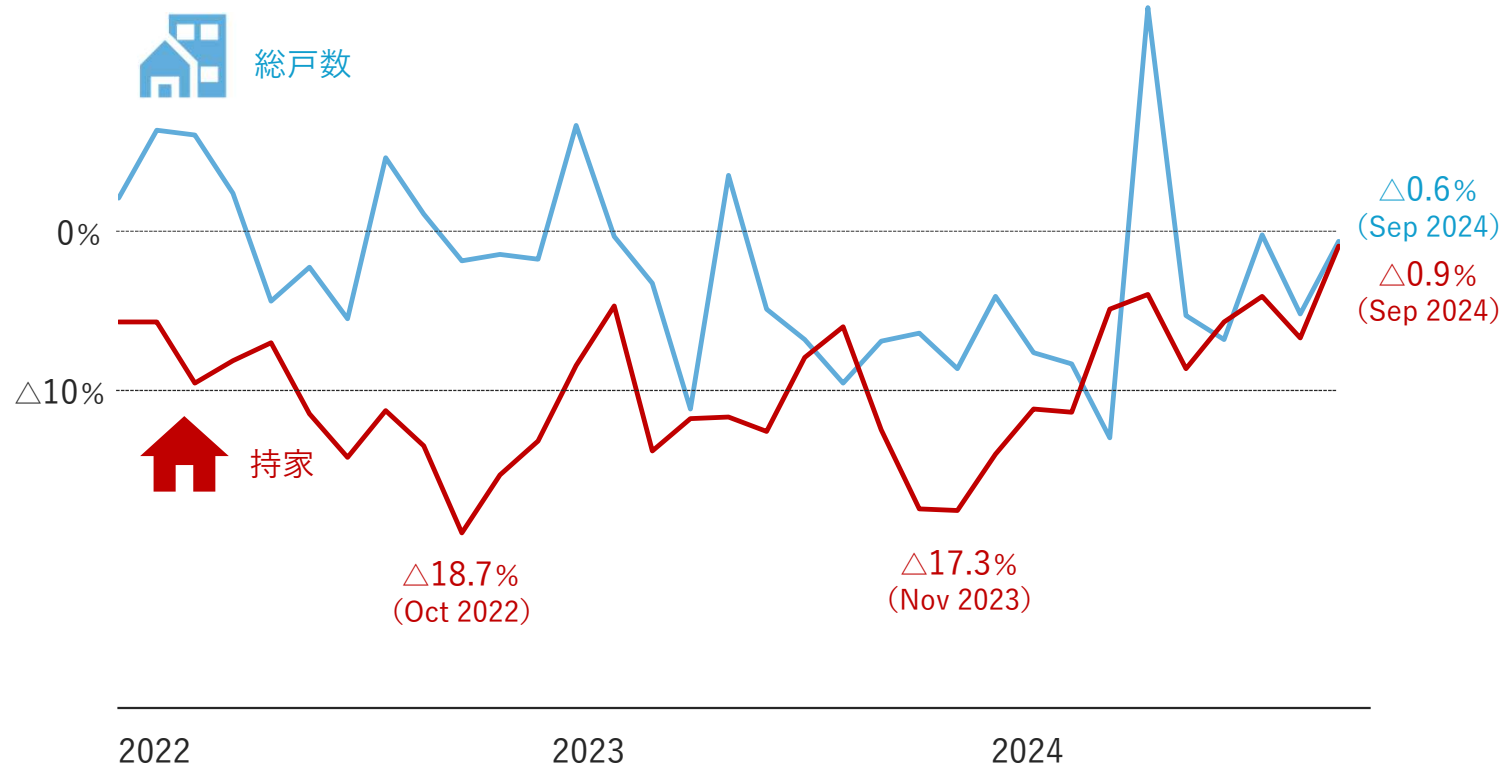
*2024年4月からアクアフォームの熱伝導率が変わり断熱性能が向上したため、条件付きながら等級6の仕様が可能となりました。

新設住宅着工戸数

(前年同期比)

当社の戸建部門は、注文住宅の施工が多いため、持家との親和性が高くなります。

マンションは、総戸数に含まれておりますが、当社では建築物部門に計上しています。



お問い合わせ先

管理本部 経営企画部（担当：小室）
03-5463-1117
m.komuro@n-aqua.com

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

本資料は、株式会社日本アクアの財務情報・経営情報等に関する情報提供を目的としたものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為を目的とするものではありません。実際の投資に際しては、ご自身の判断と責任において投資判断を行っていただきますようお願い致します。また、本資料の記述内容につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

本資料には、当社の計画など将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、作成時点において入手可能な情報に基づいており、様々なリスクや不確実性が内在しています。従って、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。また、新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来に関する記述を更新、変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

本資料の内容に関する一切の権利は当社に帰属しております。複写及び無断転載はご遠慮ください。